



第81期 報告書

株主通信

平成20年4月1日～平成21年3月31日



株式会社 指月電機製作所

<http://www.shizuki.co.jp/>

証券コード 6994

東証二部・大証二部

社会の変動期こそ、「人づくり」という企業の基礎体力が問われます。



代表執行役社長
梶川 泰彦

4月は原点週間。あらためて基本を固めています。

4月から始まる半期は、企業にとっては新年に相当します。当社では、毎年この期間を「原点週間」と名付けて、企業のあり方や経営方針などを、あらためて全員で相互に確かめ合う時期として設定しています。

非常に基本的な項目の再確認を、トップからすべての部門の管理職にいたるまでが行いますから、新入社員の人たちが「え？ こんな人たちまで、私たちと同じ初歩的な項目の再確認をするの？」と、驚くかもしれません。そこまでの「基本」を大切にするのは、やはり企業活動は「人」が行うものだからです。

不景気になると、企業の合理化策として、商品の品種を統合するという経営手法もあるかもしれませんが、当社ではそれを、「自社の都合でお客さま都合を無視した経営」だと考えています。

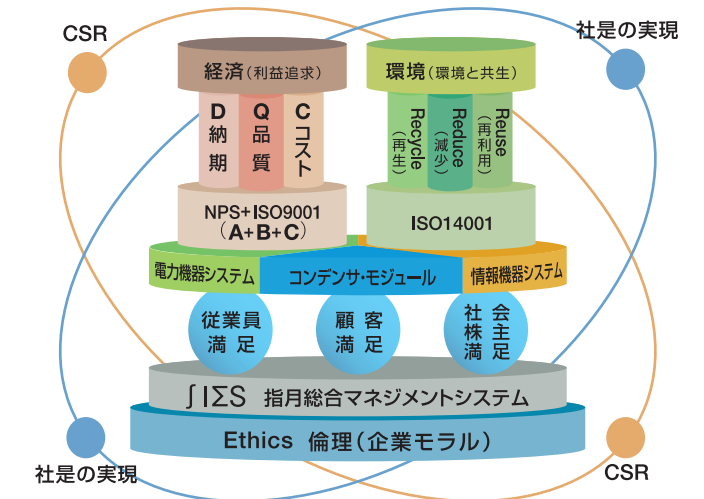
多品種少量生産で赤字が出るなら、それは当社の生産ノウハウの不備なのであって、そこを「工夫」するのが現場の知恵です。この知恵を出す事こそが、当社が掲げている「人づくり」であって、この工夫や知恵を尊重することこそが人間尊重の経営だと私は考えております。

当社のコンデンサ・モジュール技術は、次代を担うキーパーツです。

当社のコンデンサ技術は、これからのエコや新エネルギー市場においては「電気エネルギーのマネジメント」という意味で欠かせない基本的商品です。その意味で当社は、エネルギーの変革が起きる、この新時代に向けて、大きな可能性を持った企業だと言えるでしょう。

しかし、そんな大きな市場性ある技術であっても、お客さまの望む形になっていなければ、「シズキに発注しよう」という事にはなりません。だからこそ、シズキでは、社是や考働指針を大切にし、お客さまへの満足提供をイズム=考え方として社員一人一人に定着させていますし、世界的に経営環境が厳しくなっている現在でも変わることはない方針です。

指月グループの経営概念



「JIS<指月総合マネジメントシステム>とEthics<倫理(企業モラル)>を基盤として社是の実現と社会的責任を果たし、持続的成長を實踐。

NPS: New Production System
A+B+C: A(開発、営業など)+B(生産)+C(物流、サービスなど)

社 是

我々は人間性を尊重し
環境を大切にする無駄のない物づくりにより
お客様に満足を提供し
社業の発展を通して社会に貢献します

考働指針

1. 仕事とは約束であり職場は約束を果たす場である
2. いかによれば可能かを語り
なぜ不可能かを語る必要はない
3. 知恵を使え 気を使え 手を使え

さらなる発展を目指して。—— 新中長期計画 AIM2013 を設定。

次の5年を見据えて、「AIM2013」を策定。

そんな原点を見つめる活動を基盤に、今回は、あらたな企業の目標として「AIM2013」を策定いたしました。これは2013年に、全売上高を270億円に、営業利益を32億円にしようという目標ですが、前AIMである「AIM2010」の売上高200億円を2年前倒し達成した事を受けて、次のAIMとして策定したものです。これは現時点での各部門の市場性などを考慮したうえで、達成可能な数値になっていると考えています。

研究開発もお客さま志向で投資。

世界同時不況のように、経済の大きな波の影響を多少は受けることもありますが、それでも電気エネルギーの有効活用という大きな時代の流れが変わることはありません。次代の商品開発を見据えて、秋田指月の研究開発棟に続き、九州指月でも業界に先んじた研究開発棟を9月には稼働させるという大きな投資も行って参ります。

この施設によって、当社の開発体制はお客さまとの共同開発の性格が強くなり、開発スピードも上が

りますし、単なるカスタマイズを超えた、商品創造の根幹技術から改善を行うような画期的な商品提供もできるようになるかもしれません。

これから、エネルギー供給に大きな変革が起きてくる時代、コンデンサ・モジュールは変革のキーパーツになっていこうと考えております。

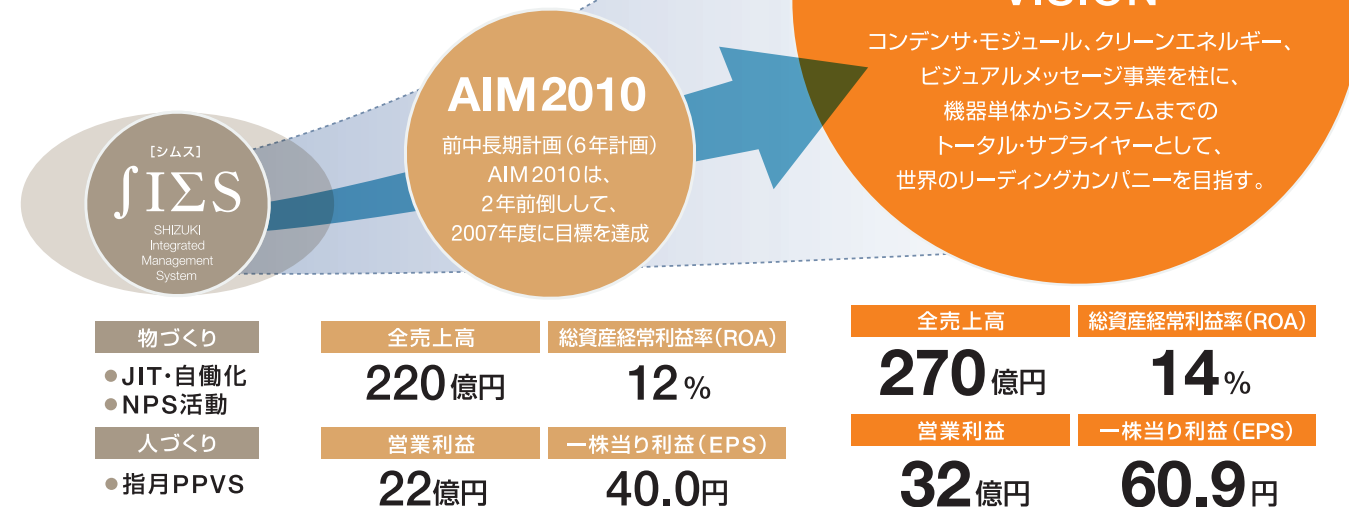
コンデンサメーカーとしての商品の提供はもちろんの事、お客さま視点の商品を提供することが、当社の使命であり、「シツキに頼むしかない」と言っただけの企業を目指すということでもあります。これからも、そんな指月電機製作所をどうぞよろしくお願いいたします。

AIM2013

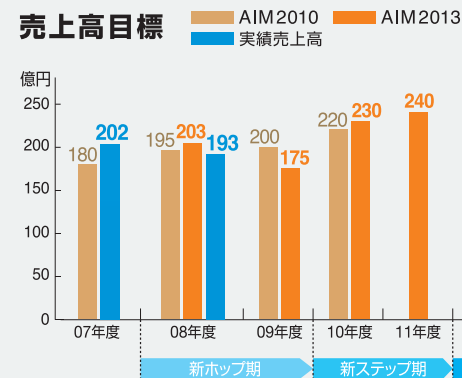
AIM2013を目指した経営戦略

- ▶ 対応型から提案・ソリューション型企业への革新
- ▶ 重点事業領域(ドメイン)の拡大
- ▶ 事業活動の最適化 (JISの展開)
- ▶ 共育と訓練 (指月PPVSの展開)
- ▶ 固有技術のプロ集団化 (研究・開発の環境整備)

JIS(シムス)をもとにさらなる飛躍を目指すAIM2013



売上高目標



経営指標

項目	単位	実績		新ホップ期		新ステップ期		新ジャンプ期	
		07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度	
営業利益	億円	18.9	13.6	10.0	24.2	26.4	28.8	32.4	
総資産経常利益率(ROA)	%	10.6	6.9	5.3	11.6	11.9	12.7	14.1	
一株当たり利益(EPS)	円	55.7	28.3	21.0	46.3	50.1	54.0	60.9	

実績: 07-08年度
計画: 09-13年度

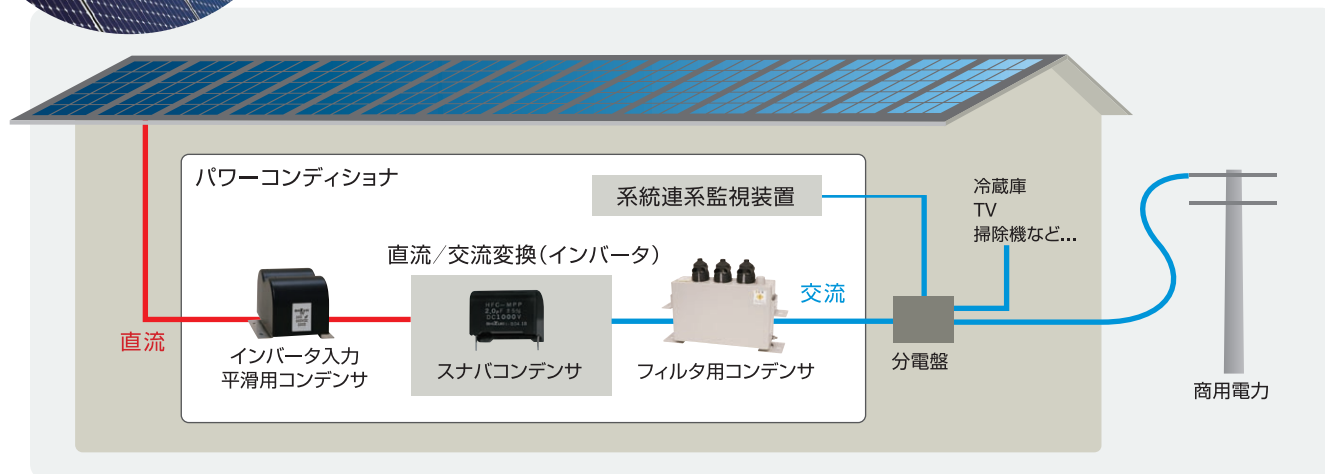
新エネルギー発電とフィルムコンデンサ

次代を担う新エネルギーの活用に、
当社のフィルムコンデンサが貢献しています。



太陽光発電

特性が良く、小型で寿命の長いフィルムコンデンサが有利に。



平滑用コンデンサ

平滑用は電力を安定した波形に整える役割を担います。従来、この部分には電解コンデンサが使われていましたが、当社が得意とするフィルムコンデンサに置き換えられつつあります。これは、太陽発電パネルの寿命が20年と長く、寿命の短い電解コンデンサ(7~8年程度)よりも寿命の長いフィルムコンデンサ(15年以上)が適していることが大きな理由。太陽光発電には欠かせない部品になりつつあります。



スナバコンデンサ

太陽光発電、風力発電の出力は秒単位で非常に激しく変動します。そのため作数の変動抑制が大きな課題。この抑制のための使われていますが、その半導体が壊れるのを防ぐ目的でスナバコンデンサが活用。風力発電装置のメンテナ

ンテナンスに効果的です。



フィルタ用コンデンサ

フィルタ用コンデンサは「ノイズ」「高調波」を除去するためのコンデンサ。電力品質向上のために発電装置には必要な重要部品です。



現在、新エネルギーの利用が世界的に拡大しつつあり、経済復興の主要市場として期待されています。

その変革の中心ある技術が、太陽光発電と風力発電です。

風力発電設備は、海外はもとより国内でも大型化し、太陽光発電も、1000kWクラスまでの大容量施設が幅広く設置されはじめています。

これら新エネルギーの変換器部分を中心に、当社のフィルムコンデンサが数多く使われ高評価をいただいています。



風力発電

変換装置を守り、メンテナンスの手間を低減。

なるほど
シヅキの
技術力!





おかげさまで70周年 指月電機 70年の歩み

1930～

1939年 3月
独立し個人経営の「指月製作所」を設立し、電気炉用、レントゲン用のオイルコンデンサの開発に成功(国内初)、製造を開始する。(創業)



1950～

1950年12月
高圧進相コンデンサの生産を開始。

1951年11月
「低圧進相コンデンサ」のJIS表示許可工場認定を受ける。

1955年10月
金属化紙(MP)製造からMPコンデンサ製造まで一貫生産体制確立。(国内メーカー初)

1955年11月
「JIS表示許可工場の品質管理の優秀企業を表彰する制度」で工業技術院長賞受賞。

1970～

1970年 9月
直列リアクトルの生産を開始。

1972年 3月
電子技術総合研究所にコンデンサをエネルギー源とする核融合装置を納入。

1974年11月
モータ運転用フィルムコンデンサ(CMEタイプ)を開発し、ロングベストセラー商品となる。

1990～

1990年 6月
「アクティブフィルタ」を開発・発売。

1994年 8月
音声合成方式の「バス車内案内放送装置」を開発・納入。

1998年11月
金属化蒸着フィルムの電極面にヒューズ機能をもたせる構造を開発し、オーム技術賞を受賞。

1999年 6月
電気二重層コンデンサ「FARADCAP」を開発・発売。

2009年
70th

創業期



低圧進相コンデンサ



チョークコイルコンデンサ



MPコンデンサ



MP式直列コンデンサ



核融合装置



CMEコンデンサ



FARADCAP



V-Backup

未来へ

1940～

1942年 7月
陸/海軍省共同の管理工場に指定された事で軍需用コンデンサ(主に無線通信用コンデンサ)の生産が急増、以降、三重工場(四日市)を増設するなど2000名を超える規模となった。

1945年 8月
戦災により工場を焼失し、事業休止。

1947年 9月
「株式会社指月電機製作所」として再発足。



1960～

1961年 5月
薄膜フィルムコンデンサ「ラッカーフィルムコンデンサ」を開発。(国内初)

1963年11月
岡山指月株式会社設立。

1964年 9月
「JIS表示許可工場の品質管理の優秀企業を表彰する制度」で最高賞の通産大臣賞を受賞。

1968年 4月
秋田指月株式会社設立。

1969年 4月
米国「ウエスティングハウス社」の技術導入で、電力用フィルムコンデンサの商品化。(国内初)

1969年12月
九州指月株式会社設立。

1980～

1980年 9月
路線バス用の運賃表示器を開発・発売。

1981年11月
省エネルギー効果の大きい低圧用省エネパックを開発。

1984年12月
ガス封入タイプの高圧進相コンデンサを開発・発売。(世界初)

1986年11月
米国「TRW社」のコンデンサ部門を買収し「AMERICAN SHIZUKI Co.」として発足。

1989年10月
鉄道架線の地絡事故防止のための「き電保護バック」の開発により、科学技術長官賞及びオーム技術賞を受賞。

2000～

2001年11月
「FARADCAP」を使った瞬時電圧低下補償装置「V-Backup」を開発・発売。

2002年 1月
コンデンサ開発センターを岡山県総社市に設立。

2003年 6月
商法改正に伴い「委員会等設置会社」へ移行。

2006年 5月
中国に現地法人「指月獅子起(上海)貿易有限公司」を設立。

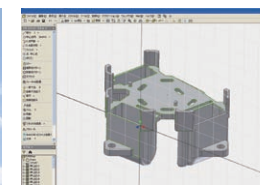
2006年12月
秋田指月「研究開発棟」新築。

2007年 4月
タイに現地法人「タイ指月電機株式会社」を設立。

TOPICS

TOPICS #01

お客さまのご要望を、よりスピーディーに、的確に形にするために
秋田指月研究開発棟本格始動!



3Dデータ(写真上)とそれをもとに製作した造形モデル(写真下)

2006年12月の開設以来、素材やデザイン、生産コストなどの課題を迅速に解決するために、分析(素材分析や組成分析)・試作開発(3Dプリンタ等を活用した迅速なモデリング)・試験検証(実使用環境を想定した各種評価)が可能な最新鋭の設備を導入し、お客さまとの共同研究や共同開発も可能な技術支援体制をすすめてまいりました。

すでに、研究開発棟では、家電や産業のインバータ用コンデンサの開発や、風力発電、太陽光発電用コンデンサ、ハイブリッドカーの機能部品の開発など、多彩な実績を得ることができました。

また、今後は非接触給電用コンデンサユニットの研究など、次代を担う基礎研究から、お客さまのニーズにスピーディーに応える応用製品の開発など、研究開発と設計、生産工場が一体化した独自の技術支援体制を確立し、より一層、お客さまのニーズに応じてまいります。

九州指月研究開発棟 2009年9月に完成予定

九州指月にも同様の研究開発棟を建設中。大型コンデンサやモジュール開発など、電力設備や鉄道関係のお客さまの幅広いご要望に対応していく予定です。



九州指月研究開発センターイメージ

TOPICS #02

新商品紹介

新型ハイブリッドカーに採用

新型ハイブリッドカーのパワエレ用コンデンサ・モジュールとして、シツキの商品が採用されました。シツキ独自の積層技術、モジュール設計・製造技術を駆使し、高品質・小型化を実現しました。



DC/DCコンバータ用コンデンサ一体型端子台モジュール

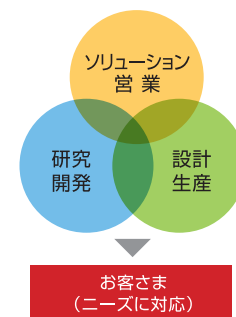
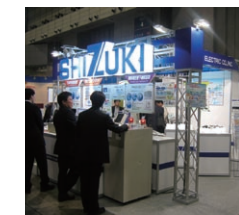
TOPICS #03

電気エネルギーマネジメント企業をアピール

各種展示会に出展

「電気エネルギーの有効活用」「環境に優しい」をテーマに、各種展示会に出展。商品を多数展示し、さまざまな提案、解決策をご紹介しました。

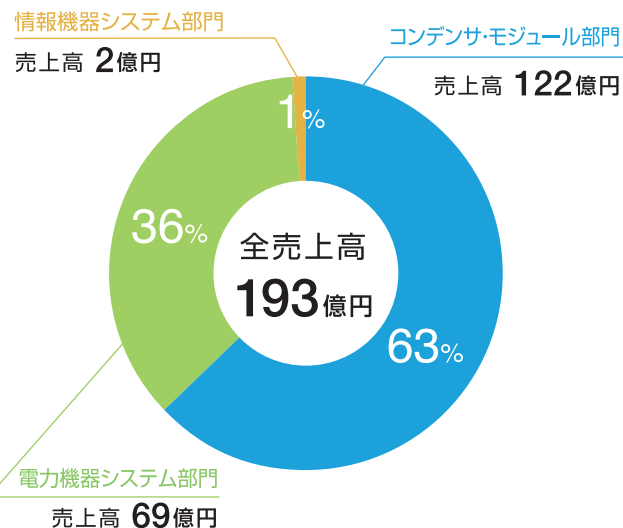
- ▶ テクノフロンティア 2008
- ▶ 人とくるまのテクノロジー展 2008
- ▶ 2008電設工業展



事業概要と展望

昨年9月以降、米国金融危機に端を発した世界同時不況の影響を受け、当社グループを取巻く環境は厳しく推移しました。今後も厳しい状況は続くと思われます。一方で環境共生、電力の自由化、新エネルギーの積極的な活用、高齢化社会への対応などが更に加速活発となり、新たなニーズが生まれてきております。これらに関連する当社の事業は拡大の可能性が高まっていると思われれます。当社グループは、このような市場環境の変化を捉え、昨年12月に中期経営計画の見直しを行い新たに中長期経営計画「AIM2013」を策定、目標必達に向け邁進しております。株主の皆様にはますますのご支援、ご鞭撻を賜りたく何卒よろしくお願い申し上げます。

部門別売上高比率（2009年3月）



売上高
構成比率
63%

コンデンサ・モジュール部門

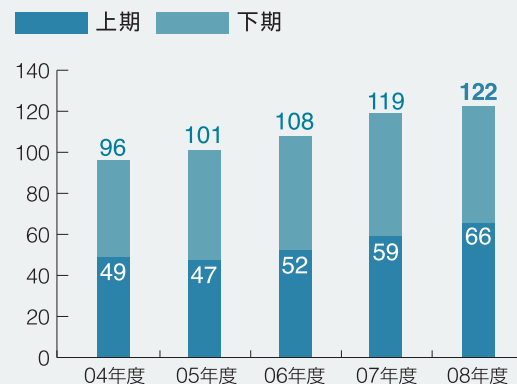
自動車産業及びFA機器産業などによる大幅な減産の影響を受けましたが、鉄道分野が堅調に推移したため伸びました。

電力の効率化、新エネルギー活用など市場の動きに伴い、ハイブリッド型建設機械・運搬機器、乗用車、新エネルギー関連（風力・太陽光・燃料電池）、IH家電・機器用のインバータ用フィルムコンデンサ及び蓄電用電気二重層コンデンサの需要は更に拡大するものと予測されます。

今後も、小型、高機能フィルムコンデンサ、高エネルギー密度・高出力密度の電気二重層コンデンサの開発を進めてまいります。



コンデンサ・モジュール部門売上高 (単位:億円)



売上高
構成比率
36%

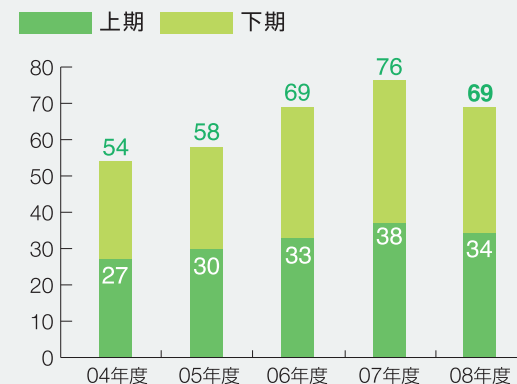
電力機器システム部門

生産設備の高精度化に伴い、保守の容易なコンデンサ式瞬時電圧低下・短時間停電補償装置の必要性が高まっております。このニーズに応えるため、省エネ、小型化、低価格化を一層進め、市場シェアの拡大を図ってまいります。

また、当社が得意とする高調波・フリッカ対策・力率制御などの「電力品質改善技術」と当社独自の技術を融合し、新エネルギー対応・省エネ対応の新たな商品開発を推進いたします。



電力機器システム部門売上高 (単位:億円)



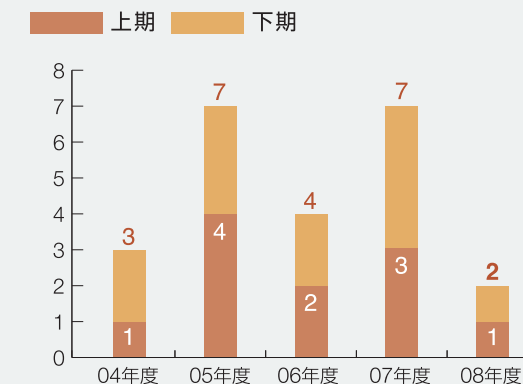
売上高
構成比率
1%

情報機器システム部門

今期は、「バス用表示装置」が堅調に推移いたしましたが、空港物件の端境期に入ったため売上が大幅に減少いたしました。当社独自の技術によるTFT液晶パネルと、フルカラーLED表示デバイス活用商品を一層充実させ、「バス車内用表示装置」「鉄道用表示装置」「空港用表示装置」の分野において、商品力の向上及び営業活動の強化を図ってまいります。



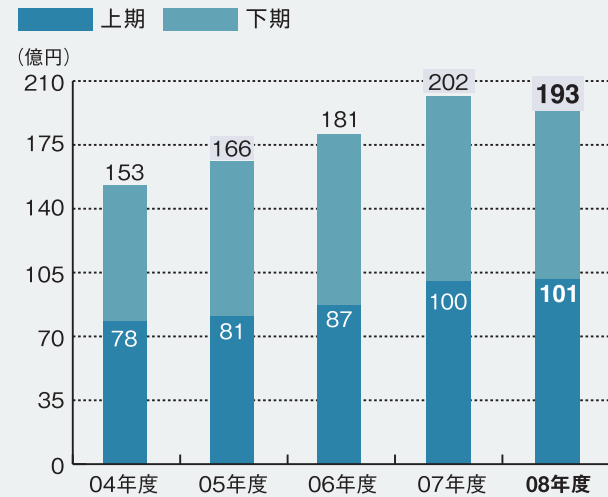
情報機器システム部門売上高 (単位:億円)



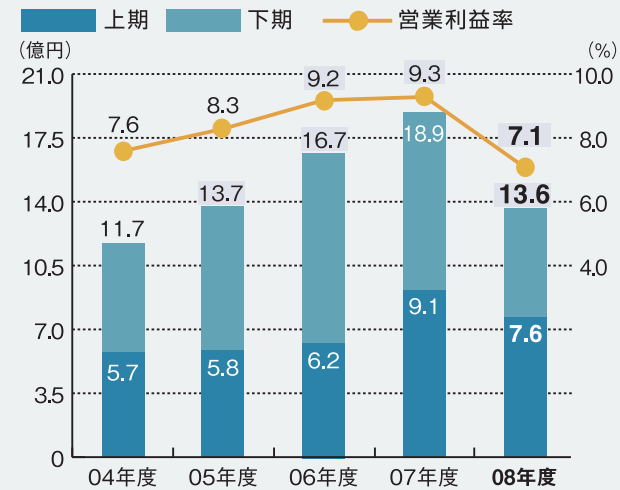
財務ハイライト(連結)

売上高

多顧客限量生産が功奏し大幅な落ち込み回避

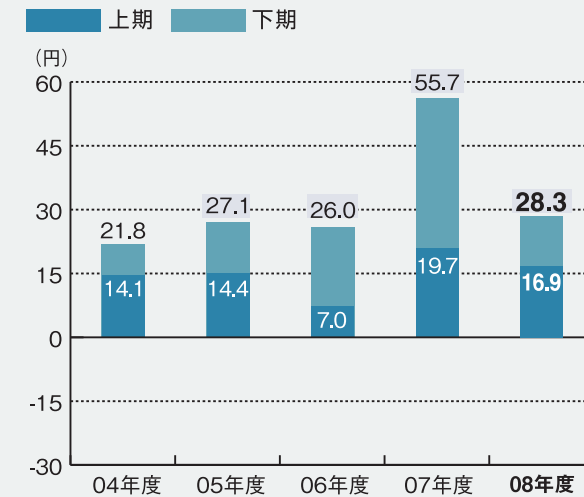


営業利益・営業利益率

合理化投資、原低活動強化し
堅固な営業利益水準を確保

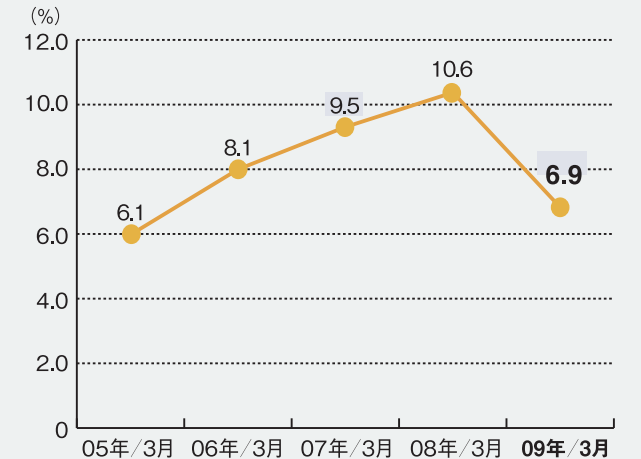
1株当たり利益(EPS)

安定的なEPS計上の実現



総資産経常利益率(ROA)

利益減をカバーできず6.9%に低下



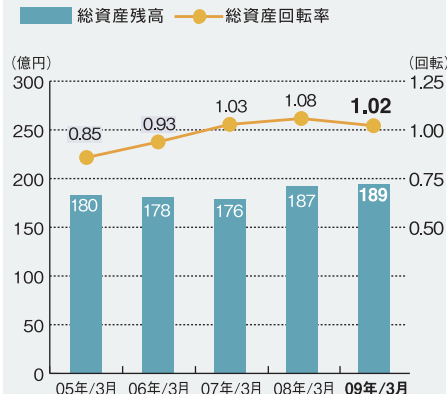
POINT

厳しい決算ながら
財務体質強化進展

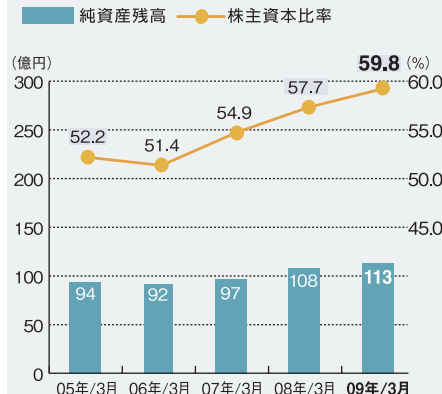
売上高は自動車、家電の落ち込みを産業機器がカバーしましたが、減少を余儀なくされました。

一方、株主資本比率、有利子負債依存度、棚卸資産回転率は改善しており、投下資本に対する効率経営を進めております。

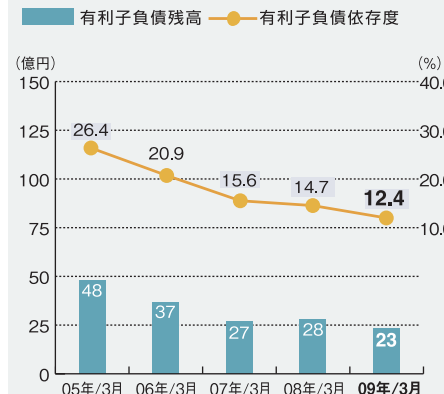
総資産残高・総資産回転率



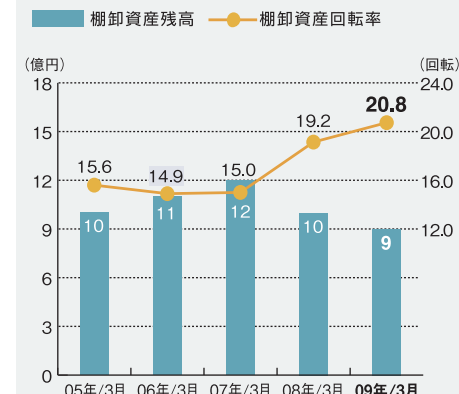
純資産残高・株主資本比率



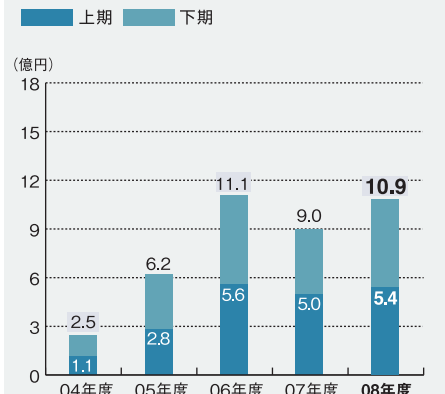
有利子負債残高・有利子負債依存度



棚卸資産残高・棚卸資産回転率



設備投資額



連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	第80期期末 平成20年3月31日現在	第81期期末 平成21年3月31日現在
資産の部		
流動資産	8,991	9,044
現金及び預金	2,747	4,080
受取手形・売掛金	4,329	3,434
棚卸資産	1,052	931
その他資産	862	599
貸倒引当金	△0	△1
固定資産	9,744	9,868
有形固定資産	8,370	8,614
建物及び構築物	2,228	2,107
機械装置及び運搬具	1,455	1,578
土地	4,409	4,404
建設仮勘定	86	247
その他	190	277
無形固定資産	78	58
投資その他の資産	1,295	1,195
投資有価証券	680	545
長期貸付金	35	28
その他	620	654
貸倒引当金	△40	△32
資産合計	18,736	18,913

POINT

活発な設備投資による総資産の増加

手許流動性を原資とした設備投資を積極的に行なった結果、総資産残高が増加しました。

(注) 十百万円の位を切り捨てて表示しております。

(単位:百万円)

科目	第80期期末 平成20年3月31日現在	第81期期末 平成21年3月31日現在
負債の部		
流動負債	3,851	4,854
買掛金	929	803
短期借入金	1,061	1,999
未払費用	1,029	1,203
未払法人税等	53	250
引当金	469	420
その他	308	176
固定負債	4,044	2,714
長期借入金	1,600	300
退職給付引当金	1,009	949
その他	1,435	1,464
負債合計	7,896	7,569
純資産の部		
株主資本	10,552	11,207
資本金	5,001	5,001
資本剰余金	3,297	3,302
利益剰余金	3,242	3,882
自己株式	△989	△977
評価・換算差額等	257	107
その他有価証券評価差額金	123	48
土地再評価差額金	859	859
為替換算調整勘定	△725	△800
少数株主持分	30	29
純資産合計	10,840	11,344
負債純資産合計	18,736	18,913

POINT

自己資本比率の増強

利益剰余金の増加により、自己資本比率は59.8% (前期比+2.1%)改善しました。

(注) 十百万円の位を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	第80期期末 平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで	第81期期末 平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで
売上高	20,199	19,346
売上原価	14,243	13,805
売上総利益	5,955	5,541
販売費及び一般管理費	4,069	4,177
営業利益	1,886	1,363
営業外収益	226	260
営業外費用	195	330
経常利益	1,917	1,294
特別損失	381	40
税金等調整前当期純利益	1,536	1,254
法人税、住民税及び事業税	125	233
法人税等調整額	△259	168
少数株主利益	0	2
当期純利益	1,668	849

連結株主資本等変動計算書

当連結会計年度(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)

(単位:百万円)

	株主資本					評価・換算 差額等	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
平成20年3月31日残高	5,001	3,297	3,242	△989	10,552	257	30	10,840
連結会計年度中の変動額								
剰余金の配当			△210		△210			△210
当期純利益			849		849			849
自己株式の取得				△16	△16			△16
自己株式の処分		4		27	32			32
株主資本以外の項目の当期連結 会計年度中の変動額(純額)						△150	△1	△151
連結会計年度の変動額合計	—	4	639	11	655	△150	△1	503
平成21年3月31日残高	5,001	3,302	3,882	△977	11,207	107	29	11,344

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	第80期期末 平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで	第81期期末 平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,550	3,086
投資活動によるキャッシュ・フロー	△995	△1,183
財務活動によるキャッシュ・フロー	△181	△643
現金及び現金同等物に係る換算差額	△16	△27
現金及び現金同等物の増減額	357	1,232
現金及び現金同等物の期首残高	2,390	2,747
現金及び現金同等物の期末残高	2,747	3,980

POINT

営業キャッシュフローの増加

税引前利益の着実な積み上げ及び減価償却費の増加により、営業キャッシュフローを改善しました。

財務キャッシュフローの増加

有利子負債の削減に取り組み、財務キャッシュフローが増加しました。

個別貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	第80期期末 平成20年3月31日現在	第81期期末 平成21年3月31日現在
資産の部		
流動資産	7,804	8,095
現金及び預金	1,705	3,339
受取手形・売掛金	4,087	3,162
棚卸資産	389	320
その他資産	1,623	1,275
貸倒引当金	△0	△1
固定資産	9,011	8,729
有形固定資産	5,468	5,458
建物及び構築物	1,037	1,039
機械装置及び運搬具	211	170
土地	4,148	4,144
建設仮勘定	0	5
その他	69	97
無形固定資産	46	30
投資その他の資産	3,496	3,241
投資有価証券	677	542
長期貸付金	1,632	1,471
その他	1,694	1,652
貸倒引当金	△508	△425
資産合計	16,816	16,825

(注) 十百万円の位を切り捨てて表示しております。

科目	第80期期末 平成20年3月31日現在	第81期期末 平成21年3月31日現在
負債の部		
流動負債	3,391	4,295
買掛金	1,266	1,108
短期借入金	1,000	1,800
未払費用	781	918
未払法人税等	—	233
引当金	233	188
その他	109	45
固定負債	3,232	1,889
長期借入金	1,600	300
退職給付引当金	197	147
その他	1,435	1,441
負債合計	6,624	6,184
純資産の部		
株主資本	9,209	9,733
資本金	5,001	5,001
資本剰余金	3,297	3,302
利益剰余金	1,899	2,407
自己株式	△989	△977
評価・換算差額等	983	907
その他有価証券評価差額金	123	48
土地再評価差額金	859	859
純資産合計	10,192	10,641
負債純資産合計	16,816	16,825

(単位:百万円)

個別損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	第80期期末 平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで	第81期期末 平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで
売上高	18,102	17,554
売上原価	13,266	13,041
売上総利益	4,835	4,513
販売費及び一般管理費	3,185	3,257
営業利益	1,650	1,256
営業外収益	136	127
営業外費用	193	257
経常利益	1,592	1,125
特別利益	128	82
特別損失	381	40
税引前当期純利益	1,339	1,168
法人税、住民税及び事業税	27	211
法人税等調整額	196	238
当期純利益	1,116	718

個別株主資本等変動計算書

当事業年度(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)

(単位:百万円)

	株主資本					評価・換算 差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
平成20年3月31日残高	5,001	3,297	1,899	△989	9,209	983	10,192
事業年度中の変動額							
剰余金の配当			△210		△210		△210
当期純利益			718		718		718
自己株式の取得				△16	△16		△16
自己株式の処分		4		27	32		32
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)						△75	△75
事業年度中の変動額合計	—	4	508	11	524	△75	448
平成21年3月31日残高	5,001	3,302	2,407	△977	9,733	907	10,641

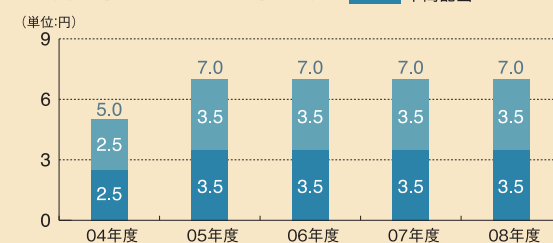
(注) 十百万円の位を切り捨てて表示しております。

期末配当金 1株当たり3円50銭

当期の配当金は、中間配当金とあわせ、1株当たり7円とさせていただきます。

1. 期末配当金 1株当たり3円50銭
2. 支払対象者 平成21年3月31日最終の株主名簿及び実質株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者
3. 支払開始日 平成21年6月11日

1株当たりの配当実績



2009年3月31日現在

株式の状況

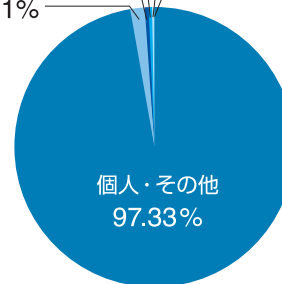
発行可能株式総数	128,503,000株
発行済株式の総数	33,061,003株
株主数	4,526名

大株主（上位10名）

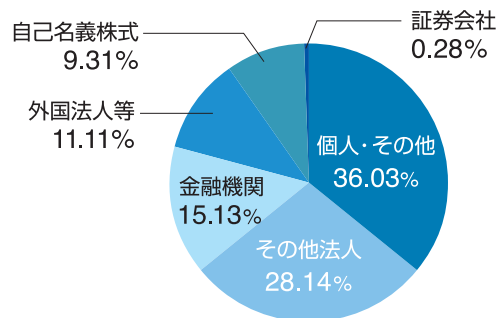
株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
三菱電機株式会社	6,980	21.1
ゴールドマンサックス インターナショナル	2,816	8.5
株式会社りそな銀行	1,299	3.9
株式会社みなと銀行	925	2.7
日本スタートラスト 信託銀行株式会社	912	2.7
指月協友持株会	679	2.0
東京海上日動火災保険株式会社	565	1.7
株式会社ノーリツ	560	1.6
株式会社三菱東京UFJ銀行	431	1.3
指月電機製作所自社株投資会	401	1.2

所有者別株主数分布状況

外国法人等 0.40%
証券会社 0.42%
その他法人 1.61%
金融機関 0.22%
自己名義株式 0.02%



所有者別株式数分布状況



株価チャート



2009年3月31日現在

会社概要

商号	株式会社指月電機製作所	
英文名称	SHIZUKI ELECTRIC COMPANY INC.	
本店所在地	〒662-0867 兵庫県西宮市大社町10番45号 TEL:0798-74-5821	
ホームページ	http://www.shizuki.co.jp/	
創業年月日	昭和14年3月10日	
設立年月日	昭和22年9月1日	
資本金	5,001,745,595円	
グループ従業員数	1,230名	
主要取扱業務	<ul style="list-style-type: none"> ●コンデンサ及び関連機器・装置 ●電力機器・装置 ●情報機器・装置 <div style="margin-left: 150px;">} の製造販売</div>	
営業拠点	<ul style="list-style-type: none"> ●東京支社 ●東京支店／関西支店／中部支店 ●札幌営業所／仙台営業所／日立営業所 広島営業所／福岡営業所 ●マレーシア連絡事務所／韓国連絡事務所 	

役員

取締役		※社外取締役
取締役会長	梶川 泰彦	
取締役	木佐木 正文	
取締役	川本 十七生	
取締役	山下 正孝※	
取締役	池田 義範※	
取締役	増田 幹登※	

執行役

代表執行役社長	梶川 泰彦
専務執行役	木佐木 正文
常務執行役	志方 正一
常務執行役	足達 信章
常務執行役	浦屋 昌吾
執行役	谷口 義裕
執行役	伊藤 薫
執行役	松井 啓真
執行役	矢部 久博
執行役	小田 敦

生産子会社

社名	資本金	出資比率(%)
九州指月株式会社 (福岡県)	300,000千円	100.0
秋田指月株式会社 (秋田県)	300,000千円	100.0
岡山指月株式会社 (岡山県)	100,000千円	100.0

販売・生産子会社

社名	資本金	出資比率(%)
アメリカンシツキ株式会社 (米国 ネブラスカ州)	17,600千米ドル	100.0
指月獅子起(上海)貿易有限公司	250千米ドル	100.0
タイ指月電機株式会社(タイ バンコク)	33,000千バーツ	70.0



株 主 メ モ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
期末配当金受領株主確定日	毎年3月31日
中間配当金受領株主確定日	毎年9月30日
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒530-0004 大阪市北区堂島浜1丁目1番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 TEL:0120-094-777(通話料無料)
公告の方法	当社は以下のURLで電子公告を行います。 http://www.shizuki.co.jp/ ※事故その他のやむをえない事由により、電子公告を行うことができない場合は、 日本経済新聞に掲載いたします。
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第2部 大阪証券取引所 市場第2部

【ご注意】

- 株券電子化に伴い、株主さまの住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

『指月(シツキ)』社名の由来

『指月』の社名は、創業者山本重雄が長州(現在の山口県)の出身であること、また幕末長州藩の一代家老として藩政改革で功を成した村田清風が先祖にあたることから、毛利家歴代の居城である萩城(指月城)から名をお借りしたのが命名の由来です。



株式会社 指月電機製作所

本社 〒662-0867 兵庫県西宮市大社町10番45号
TEL:0798-74-5821 FAX:0798-73-0807

